

年の瀬を感じる  
拍子木の音

年末を迎え各町会では、拍子木を叩きながら、防犯・火の用心を呼びかけるパトロールを行っています。この音を聞くと身が引き締まります。



# 鍋横かわら版

(発行)  
鍋横区民活動センター運営委員会  
〒164-0012 中野区本町5-47-13  
TEL:03-3383-2733  
FAX:03-3383-2734  
メール:nakano\_nabeyoko@chic.ne.jp

## 12月号

# 地域の初詣...甘酒に誘われて...

東日本大震災、原発事故による放射能汚染、集中豪雨と多難な卯(うさぎ)年から、辰(たつ)年へとかわります。

鍋横区民活動センター運営委員会も発足して、初めての正月を迎えます。新しい年が安寧で希望の年となることを願わずにはられません。人々の心の拠りどころとして、親しまれてきた、村の鎮守の神様やお稲荷さんは、地域の連帯感や信頼感を育んできた歴史があります。多くの人々が訪れる、鍋横地域の初詣スポットを紹介します。住んでいるまちの歴史を知ること、まちへの愛着が深まるかもしれません。

### 五柱五成神社 (ごしゃいなりじんじゃ)

文政6年(1823年)京都伏見稲荷大社より勧請し、榎屋平兵衛さんの屋敷内に祀られたのが始まりです。昭和5年には、一族一門の守護神から衣食住を司る稲荷の大祖神と併せて五柱の神々を祀り天國蔵五柱五成大神(あめこくぞうごしゃいなりおおがみ)と名付け広く世の人々に御神徳を分かち今日に至っています。

※除夜の鐘が終わると、参拝者に神田明神鳥居前にある江戸時代から続く老舗「天野屋」から取り寄せた甘酒がふるまわれます。(～午前3時まで、元旦は午前9時～4時)

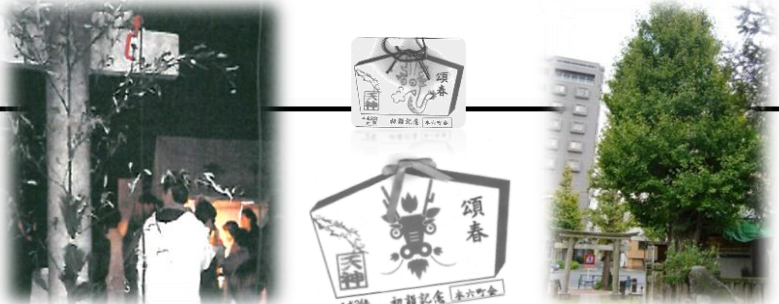


### 北野神社西町天神 (きたのじんじゃにしまちてんじん)

天神社殿には菅原道真(菅公)と、保食豊穰稲荷神、財宝と水の神の弁財天が相祀されています。初詣には、学問の神様ということで受験生の参拝する姿も見られます。

このあたりは中野村の西方にあったことから、古く江戸時代から西町と呼ばれていたようです。都営バスの停留所名は「中野天神前」となっています。

境内には、中野郷の時代から大木として近在に知られていた、大公孫樹(大イチョウ)があります。昭和54年の台風によって根株もろとも倒れてしまいましたが地域の方々の尽力により蘇生し、現在の姿までに回復しました。※除夜の鐘が終わると、午前2時まで本町通六丁目町会から甘酒がふるまわれ、町会手作りの絵馬が奉納できます。



### お正月ってなんだろう？

元旦は不思議な朝です。陽が昇って朝が来るといういつもの朝と変わらないのに、なぜか新鮮な気分になり、「あけましておめでとう」と言ったり、心機一転、今年の目標を立てたりします。

明治維新までは「旧暦」と呼ばれる太陰暦が採用されていました。この暦では、一年の初めの元日は立春(今の2月4日頃)の頃、東京では梅が咲き始める季節です。

一年の豊作、幸運を司る神様を「歳神(トシガミ)」様と言います。正月の行事は、春に恵方から来臨される新しい歳神さまをお迎えし、一年の幸いと農作物をはじめとする自然の生命の復活と再生、無病息災を願うお祭りなのです。

元旦の朝の新鮮な気分と初詣の清々しさは、年末の事前準備(大掃除?)にありと言えるのかも知れません。

### 本郷氷川神社 (ほんごうひかわじんじゃ)

文明元年(1469年)、太田道灌が江戸城鎮護のため、大宮氷川神社から本郷と雑色(現弥生町)に勧請分祀したものです。江戸幕府開設後は本郷村の鎮守社となりました。スサノオノミコトを祀っています。

昭和20年5月の大空襲によって社殿は焼失しましたが、昭和30年に再建されました。

社殿前には天保4年(1833年)と刻まれた一对の親子の狛犬がありますが、片方は乳を飲ませ、もう一方は頭を撫でている珍しいものです。

※大晦は除夜の鐘と共に初詣の人で賑い、参拝者の列が坂の下まで続きます。千枚の富くじが配られ、いただく甘酒、御神酒で心も身体も温まります。

